

土はなにいろ？

みなさんは風景を描く時に、地面をなにいろでぬりますか？茶色や黒色でぬるという人が多いのではないのでしょうか。もし赤色や水色、白色にぬったら、変だと思いませんか？実は、土にはさまざまな色があるので、どの色にぬっても正解です。

土は、植物の葉や根、あるいはそれらを食べて分解した微生物のフンや死がいなど（有機物）と、岩石・砂・粘土・火山灰などの母材（無機物）が混ざり合っていてできています。一般に、土の中に有機物（腐植）が多いと黒っぽく、少ないと白っぽくなります。また、母材にふくまれていた鉄が風化の過程で酸素や水とくっつくと、赤っぽくなったり黄色っぽくなったり、あるいは田んぼの下など酸素が少ない環境では青緑っぽくなったりします。

土の色は、地域ごとに特徴があります。これは母材や気候がちがうためです。たとえば北海道では、灰～白色の土がよく見られます。これは、土にしみ込んだ水分が有機物や鉄、アルミニウムなど、黒色や赤色の原因となる成分を下方へ運んでしまうために作られます。沖縄では、オレンジ色や赤っぽい色の土がよく見られます。これは暖かく雨が多いために、有機物の分解や母材の風化が早く、土の中に酸化した鉄やアルミニウムをたくさん含んでいるためです。私は栃木県出身ですが、子どものころを思い出すと、黒に近い茶色で地面をぬっていました。これは関東地方によく見られる黒ボク土の色です。黒ボク土は主に火山灰を母材とする土で、東北地方や北海道、九州などでもよく見られます。

では、富山の土は何色なのでしょう？博物館では市民の皆さんと一緒に、富山市内にどんな色の土があるかを調べました。一番多かったのは黄色味があった茶色の土です。有峰周辺では灰～白色の土、射水丘陵や呉羽丘陵ではピンク色っぽい土、国際大学近くの段丘ではオレンジがかった土も見られ、土用のカラーチャートに合わせて分けてみると、48色もの色が見つかりました。今回は見つかりませんでしたでしたが、県内には白色や水色の土もあるようです。

皆さんのまわりには、どんな色の土がありますか？身近にたくさんの土の色があるなんて信じられない方もいるかもしれませんね。博物館では、3月4日から4月23日まで開催する企画展「みんなで調べた富山の自然」で、富山市内で集めたいろいろな色の土を展示します。だまされたと思ってぜひ見に来てください。きっと土の色の多様さにおどろきますよ。

(増渕佳子)

